

九州地域における低密度植栽の検証について

九州森林管理局 森林技術・支援センター
森林技術普及専門官 池水 寛治
森林技術専門官 田中 和利

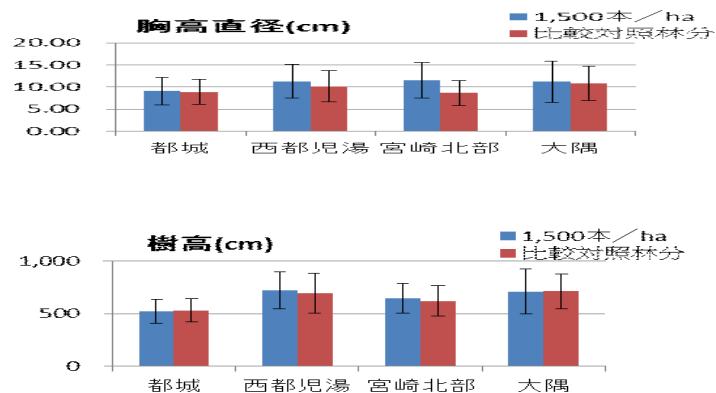
1 課題を取り上げた背景

九州森林管理局では、平成16年度に、各森林管理署等において低密度植栽（1,500本／ha）を実施しました。今回、このうちの8署等の現地検証結果をとりまとめましたので、当センター試験地での成果と共に発表します。

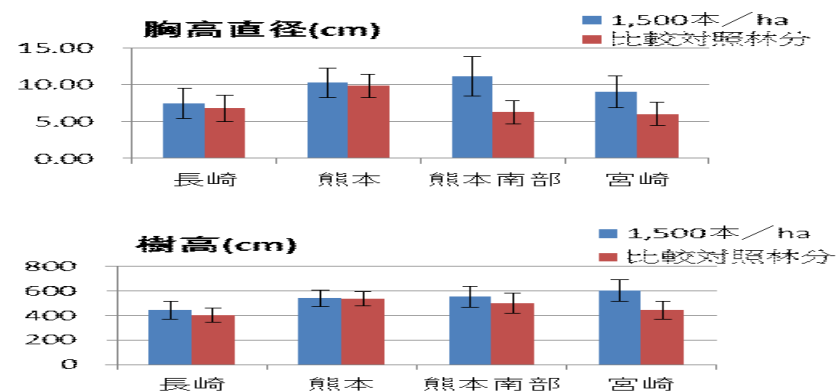
現在、コンテナ苗等を活用した一貫作業システムにより、地拵えから植付までの低コスト化に向けた取組みを行っています。今後、主伐・再造林が本格化していく中、造林の低コスト化・苗木・労働力不足などへの対応が求められていますが、今回の成果から、低密度植栽がこれら課題の解決に有効であると考えられます。

2 取組の経過

スギ



ヒノキ



3 実行結果

低密度植栽（1,500本／ha）は、比較対照林分（2,000～3,000本／ha）と比べても、肥大・上長成長ともに現段階で良好、または同等程度の値を示しています。

4 考察

スギ：低密度植栽（1,500本／ha）における肥大・上長成長・樹冠長率ともに、成長状況は良好、または同等・同等以上程度であります。（管内4署等、当センター試験地とも同様の結果）

ヒノキ：管内4署等の検証結果は、肥大・上長成長ともに同等以上である。（当センター試験地の成果についても同様の結果）

5 まとめ

スギ・ヒノキともに他の植栽密度と比較しても成長は同等程度で、低密度での1,500本／ha植栽によるコスト削減効果はもとより、各署（九州内各地域）における植栽でも、成果を十分期待できると考えられます。

6 今後の課題

九州各調査地において ①継続的な調査分析 ②主伐（成林）時における蓄積量の比較 ③最終的なコスト比較が必要であると考えています。